

ITU-T SG17第8回特別会合報告



株式会社KDDI総合研究所
サイバーセキュリティグループ
研究マネージャー

いそはら たかまさ
磯原 隆将



株式会社KDDI総合研究所
スマートセキュリティグループ
グループリーダー

みやけ ゆたか
三宅 優

1. はじめに

ITU-T SG17 (セキュリティ) の第8回会合の特別会合が、2021年1月7日(木)に、遠隔会議 (Virtual Meeting) の形式で開催された。会合には、日本からの10名を含む、91名が参加した。この会合は、2020年8月～9月の第8回会合が遠隔会議で実施されたため、審議時間の不足に対処する目的で開催された。審議予定の議案は前回会合で決定しており、新たな提案に関する寄書の受付は行われなかった。

2. 審議の結果

2.1 勧告案のTAP承認

5つの勧告案のTAP承認について審議が行われた。以下、課題番号の順番に沿って、審議結果を報告する。

課題3のX.1054-rev (Information security, cybersecurity and privacy protection-Governance of information security) について、TAP承認を次回のSG17会合まで延期した。本勧告案は、2020年8月～9月会合の時点で投票結果は賛成多数となり、TAP承認できる状態であったが、ISO/IEC JTC1との共通文書であることから、発行のタイミングを同期させるためにTAP承認を延期していた。その後、2020年12月にISO/IEC JTC1が標準文書として発行していることが確認され、共通文書化のための同期プロセスが崩れている状態となった。また、ISO/IEC JTC1において文書内容の更新が行われているため、ITU-Tの文書と内容が一致しない事態となり、現状の文書を承認することができなくなった。そのため、文書の同期と承認の手続きの対応について、引き続き議論を行うこととした。

課題4のX.1217 (Guidelines for applying threat intelligence in telecommunication network operation) について、承認された。

課題6では、X.1368 (Secure firmware/software update for Internet of things (IoT) devices) が承認された。ま

た、X.1811 (Security guidelines for applying quantum-safe algorithms in 5G systems) については、TAP承認を次回のSG17会合まで延期した。本勧告案については、TAP投票では投票国すべてが賛同したが、Orange (フランス) からの寄書により、暗号アルゴリズムeAESの情報が含まれているAppendixを削除すべきとの提案が行われた。これは、ISO/IEC JTC1 SC27でeAESの議論が中断したためである。本会合に先立って課題6中間会合で議論を行なったが合意が形成されず、今回の特別会合で意見を聞くこととなった。今回の会合では、当該のアルゴリズムはEU SIM Profileの標準等で利用されているため記述を残すべきとするコメントがあったが、特別会合では技術的な議論を行わないことから、課題6の中間会合を2月に開催して対処方針を議論することとした。

課題13のX.1376 (Security-related misbehaviour detection mechanism using big data for connected vehicles) について、承認された。

2.2 勧告案のデターミネーション

課題10のX.1252-rev (Baseline identity management terms and definitions) について、今回の会合でデターミネーション予定となっていたが、2020年8月～9月のSG17会合でデターミネーション済みであったため、2021年1月7日にTAPコンサルテーションが開始された。

2.3 勧告案のコンセント

課題4のX.sec-QKDN_km (Security requirements and designs for quantum key distribution networks-key management) について、2020年11月に開催された中間会合で審議を行った結果、今回の特別会合ではコンセントせず、次回のSG17会合まで延期することとした。本勧告案の審議を進めるため、2021年2月に中間会合を実施すること



とした。

2.4 新規ワークアイテムの設立提案に関する審議

課題10のX.1251rev (A framework for user control of digital identity) について、前回の会合で提出が遅延した寄書であったため、今回の特別会合で審議を行った。審議の結果、A.1テンプレートの作成等が必要な状況のため、新規ワークアイテムの設立を次回のSG17会合まで延期することとした。

2.5 運営体制

マネジメントメンバーについて、2022年3月に予定される

WTSA2020までは、現在のSG議長、副議長は継続することとされた。また、課題構成については、SG17でこれまで議論してWTSA2020に提案したものが次回のSG会合から採用されることになった。具体的には、課題4と課題5が統合されて新たな課題4、課題9と課題10が統合されて新たな課題10、課題11と課題12が統合されて新たな課題11、そして課題15が新設された。各課題のラポーターとアソシエイトラポーターは、これまでの課題に基づいて割り当てられた。統合された課題の共同ラポーターの役割やWP (Working Party) の構成などについては、タスクフォースを設けて検討する。表1にラポーター・アソシエイトラポーターの一覧を示す。

■表1. ラポーター・アソシエイトラポーター一覧 (敬称略)

課題	タイトル	ラポーター・共同ラポーター	アソシエイトラポーター
1	セキュリティ標準化戦略とコーディネーション	Mohamed Elhaj (スーダン)	Juhee Ki (韓国) Paul Najarian (米国) 千賀 渉 (日本) Yiwen Wang (中国)
2	セキュリティアーキテクチャとネットワークセキュリティ	Zhiyuan Hu (中国) Heung Ryong Oh (韓国)	
3	通信事業者向けの情報セキュリティマネジメントとセキュリティサービス	永沼 美保 (日本)	Jinghua Min (中国) Thaib Mustafa (マレーシア)
4	サイバーセキュリティとスパム対策	Jong-Hyun Kim (韓国) Yanbin Zhang (中国)	Changoh Kim (韓国)
6	通信サービスとIoTのセキュリティ	Jonghyun Baek (韓国) Junzhi Yan (中国)	Gunhee Lee (韓国) 高橋 健志 (日本) Bo Yu (中国)
7	セキュアなアプリケーションサービス	Jae Hoon Nah (韓国)	Feng Gao (中国) Lijun Liu (中国)
8	クラウドコンピューティングとビッグデータのセキュリティ	Liang Wei (中国)	Mark Mcfadden (英国)
10	ID管理とテレバイオメトリクスのアーキテクチャ及びメカニズム	Abbie Barbir (米国) John George Caras (米国)	Keundug Park (韓国) 武智 洋 (日本) Junjie Xia (中国)
11	安全なアプリケーションを支援するための基盤技術 (ディレクトリ、PKI、形式言語、オブジェクト識別子)	Jean Paul Lemaire (フランス)	Dieter Hogrefe (ドイツ) Gunter Mussbacher (カナダ)
13	ITSのセキュリティ	Sang-Woo Lee (韓国)	Seungwook Park (韓国) Yi Zhang (中国)
14	分散台帳技術のセキュリティ	門林 雄基 (日本) Kyeong Hee Oh (韓国)	Xiaoyuan Bai (中国) Ke Wang (中国)
15	新興技術のためのセキュリティと新興技術によるセキュリティ (量子関係技術を含む)	Dong-hi Sim (韓国)	Chen Zhang (中国)



3. 今後の会合の予定

次回の会合は2021年4月20日（火）～30日（金）に決定した。遠隔会議による時差を考慮して、会合の時間はジュネーブ時間で10時から16時とされた。また、2022年1月にe-plenaryを実施することを決定した。次回と次々回の会合の間のe-Plenaryの実施については、次回の会合で決定する。

表2に次回までに開催される中間会合等の予定を示す。

4. おわりに

コロナ禍の影響により完全な遠隔会議で会合を行う事態が1年を過ぎた。オンライン会議ツールの機能改修や、時差を考慮して会合のコアタイムを定め、審議時間が短くなる分を日数の増加で補うなど、ハード面とソフト面の工夫が蓄積され、会議運営に活かされている。一方で、WTSAのスケジュール変更に伴う暫定的な体制での運営は、これまでに前例のない取組みとなり、例えば増加した共同ラポーターの役割をタスクフォースやSG17全体で議論するといった、新たな課題も認識されている。引き続き、制約のある条件のもとであっても、効率的かつ活発な活動を模索し、実践していきたい。

■表2. 今後の関係会合の予定

会合名	開催期間	開催地	会合内容
課題3中間会合	2021年2月1日～2日	E-meeting	X.framcdc及びX.1054-revの審議
課題4中間会合	2021年2月1日～2日	E-meeting	X.sec-QKDN-kmの審議
課題6中間会合	2021年2月4日	E-meeting	X.1811の審議
SG17会合	2021年4月20日～30日	E-meeting	

ITUが注目しているホットトピックス

ITUのホームページでは、その時々ホットトピックスを“NEWS AND VIEWS”として掲載しています。まさに開催中の会合における合意事項、ITUが公開しているICT関連ツールキットの紹介等、旬なテーマを知ることができます。ぜひご覧ください。

<https://www.itu.int/en/Pages/default.aspx>